

## 第3章 金沢区心部におけるまちづくり方策

第2章では地域資源、生活環境、働く環境などの8つの要素について、金沢区心部におけるまちづくりの可能性や課題を整理しました。第3章ではそれらを踏まえ、可能性を生かしながら、課題を解決するために、次の3つの方策を設定しました。この3つの方策に基づいてまちづくりを進めることにより区心部の魅力を向上させ、区民の生活満足度を高めるとともに、人々の交流を促進させます。また、そうした取組による効果を区心部から区全域に波及させていくことを目指します。

- 1 地域資源を生かしたまちづくり・地域の魅力発信
- 2 暮らし・滞在を豊かにする機能やサービスの誘導
- 3 まちの基盤の段階的な改善

### 1 地域資源を生かしたまちづくり・地域の魅力発信

区内の多様な地域資源（自然・歴史・文化資源、公共空間、人材等）を生かし、新たな活動や魅力的な空間を創出します。それらを相互につなぐことで巡りたくなるまちを目指すとともに、こうした魅力・活動を区内外にアピールするため情報発信に取り組みます。

\* は想定される取組の例

#### (1) 地域資源を生かした活動の創出

・自然・歴史・文化資源等のもつ歴史的・文化的要素を生かし、地域を楽しむアクティビティを創出します。

- \* 平潟湾や宮川での SUP・カヌー・ボート体験や釣り体験
- \* 社寺の雰囲気を生かしたイベント
- \* 歴史・文化資源を巡る散策
- \* 公園や広場での子ども向けの星観察
- \* 自然の中から学ぶ力を育てるプレイパーク
- \* 技術者から直接学べるものづくりワークショップなどの開催
- \* 地域で採れた新鮮な食材（農産物・水産物等）やそれら加工品の販売、金沢区特産品の展示・販売
- \* 子どもたちが区内で収穫した農産物を対面販売する体験型学習の実施



ものづくりワークショップイメージ

・コミュニティ形成につながるワークショップ、イベントなどの活動を通じて、区心部のまちづくり機運を醸成します。

- \* 泥亀公園等の公園、シーサイドライン等の高架下の広場空間などの活用を通じた、区心部まちづくりへの関心のきっかけづくり



公園活用した多様なアクティビティ

・様々な世代や立場の住民が心地よく過ごせる居場所や交流できる機会をつくります。

- \* 地域にある空家などを活用した居場所
- \* 小・中・高校生が放課後や休日に心地よく過ごせる居場所
- \* 障がいの有無にかかわらず多様な人々が参加でき、世代別や多世代交流が可能な居場所
- \* 子育て中の親子が安心して集え交流でき、子どもが自由に安全に遊べる室内・屋外の間
- \* まちづくりの担い手を中心に区民、学生、来街者等が気兼ねなく集い、多様な活動を通じて自然と助け合い、理解し合えるような魅力的な場所、空間の形成



空家を活用したカフェイメージ

## (2) 自然・歴史などの地域資源を生かした魅力的な空間の創出

・海、山などの自然に恵まれた環境を感じながら、自然資源、歴史・文化資源を巡り、区民や区外からの来街者が歩いて楽しめ、快適で魅力的な空間創出を目指します。

- \* 地区の自然資源（みどり、水）を生かした空間の形成（宮川～走川プロムナード～横浜金沢歴史の道～平潟湾プロムナード）
- \* 通りの特性を踏まえた歩行者ネットワーク形成のための具体的なルート検討



宮川

・憩い・交流の場となる広場等の創出を目指します。

- \* 様々な活動が行われるだけでなく、目的に応じて使い分けられる広場空間の創出
- \* 利活用が期待されている区心部の公共的空間（泥亀公園、泥亀一丁目公園、姫の島公園等の公園、シーサイドライン等の高架下の道路など）や、その公共的空間の周辺を巻き込んだ地域交流の場づくり
- \* 地場の農産物などを売り買いしつつ、交流が生まれるマルシェのような場づくり



宮川からみた泥亀公園方面

・土地利用・建築物の更新の際には、上記の魅力的で快適性の高い歩行者空間や広場と有機的なつながりを持ちながら、金沢区の歴史的・文化的な要素を生かすなどした魅力的な都市空間や街並み形成を促します。

- \* 宮川と走川プロムナード・横浜金沢歴史の道をつなぐ、泥亀公園と金沢警察署に面した通りを「東西軸」として新たに設定し、魅力的な空間を形成



走川プロムナード

- \* 快適性の高い歩行者空間の整備や緑化、低層部に地域に開かれ活動が感じられる空間の誘導、滞留空間となる広場の創出
- \* 区心部内の社寺等の歴史的な雰囲気を継承しつつ、公園の緑、水辺空間を生かした街並みづくり
- \* 図書館・地区センターなどの市民利用施設を再整備する際には、隣接の公共施設等と連携し、緑豊かなプロムナードや歩行者ネットワークに開かれた空間を創出



横浜金沢歴史の道  
(旧国道 16 号)

### (3) 地域の魅力の情報発信による金沢区のイメージ向上

- ・豊富にある魅力的な地域資源を強みとして地域のブランディングを図り、それらを生かしたまちづくりを進めます。

- \* 区内には山も海も歴史もあるなど、地域資源が充実しており、区心部からのアクセスも容易
- \* 地域資源を利活用した活動の可能性
- \* 地域で収穫できる農産物や海で水揚げされる水産物、その加工品、区内の工場等で作られる工業製品等がある
- \* 病院・クリニックなどの医療施設が充実
- \* 能楽の演目に登場するなど古典芸能と縁がある地



シーサイドライン高架下から  
みた平潟湾

- ・(1)、(2)の取組も含め、SNS・地域情報誌・ウェブサイト等の様々な媒体を活用し、情報発信・PR するなど、金沢区に住む・働く・楽しむ視点から地域内外から注目されるまちを目指します。

- \* 地域のお気に入りのお店情報、イベントや催し物情報、生活サービス情報、生活スタイルなど、地域の日常・非日常の様々なことを居住者目線で情報発信
- \* 東京まで 1 時間程度の通勤圏、日常の買物は困らないなど利便性が高い地域にありながら、海、山などの自然に囲まれ、ゆとりのあるライフスタイルが実現できることをアピール

- ・区の魅力として広く認知されている観光施設と連携し、区の観光情報や魅力を対外的に発信することで区外（広域）からの流入につなげます。

- \* 地域情報が入手しやすい環境をつくり、区内外の居住者が訪れたい・住みたいと思う機会を増やす

## 2 暮らし・滞在を豊かにする機能やサービスの誘導

近年の ICT の発達、企業の働き方改革への取組推進等により、自宅やシェアオフィスなど、職場以外の場所で働くテレワークが急速に導入され、勤労者の働き方が大きく変化をしています。この流れを的確に捉え、郊外区の持つ強みを生かしながら、区民の暮らしや通勤・通学者等の滞在を豊かにするために、区を中心部に求められる機能・サービスを誘導します。

\* は想定される取組の例

### (1) ライフステージの変化に対応できる多様な住まいづくり

・区民の年齢・世帯構成の変化や、暮らし方・働き方のニーズの多様化に対応できる、様々なバリエーションの住宅を誘導します。

\* 若い世帯・共働き世帯にとって魅力的な住宅（例えば、ペット可・DIY 可・シニア向け・子育て世代向け・テレワーク対応など、部屋ごとに様々なコンセプトを持ちあわせた都市型住宅、若者世代のニーズにあったデザイン性のある賃貸住宅等）



\* 郊外部に住む世帯構成が縮小したシニア層にとって暮らしやすい都市型住宅

\* 住み手と貸し手（売り手）情報をマッチングできる仕組みづくり

\* 金沢区で育った若い世代の流出抑制と流入（Uターン）促進

### (2) 多様な働き方を実現できる場の創出

・都心に通勤するスタイルだけでなく、地元企業で働く、職場は都心にありながらも自宅近くで仕事ができるなど、ライフスタイルにあわせた多様な働き方を実現できる場の創出を目指します。

\* テレワークが可能な環境のよい郊外部における働き方の推進

\* 区心部や区心部周辺の自宅から徒歩や自転車などで通える、職住近接型のシェアオフィス・サテライトオフィスの誘導、会議室併設などテレワーク支援型サービス施設の誘導



シェアオフィスのイメージ

### (3) 日常生活を支えつつ、まちを楽しむことができる機能の誘導

#### ●生活を豊かにし、滞在を楽しむ体験ができる場や機会の創出

・人々の参画交流を促し地域に開かれた文化的な施設や、一人でも複数でも楽しめる個性的な飲食店やサービス店、気持ちの良い屋外空間など、各々が思い思いに過ごせる場や機会を増やし、区民の生活満足度や区外からの来街者の満足度を高めます。

- \* おしゃれな飲食店や屋外でおいしい食事やお酒が飲める
- \* 街を歩き交う人を眺めながら、カフェでゆっくりお茶ができる
- \* 地域でとれる食材を使った料理を食べられ、地ビールが飲める
- \* 地域で収穫・加工した食品が買えるなど、金沢区ならではの個性的な店が集まっていて、まちを歩きながら買物などを楽しむことができる
- \* 飲食、ファッション、インテリア、雑貨、アミューズメント、様々なテーマの店が並んでいて、自分のライフスタイルにあわせて一日過ごすことができる
- \* 心地よい緑道で散歩ができる、木陰でのんびり休める
- \* 公園や原っぱや屋内で子どもと自由に遊べる、思い切り身体を動かして汗をかける
- \* 魅力的なイベントが開催しており、趣味の合う人と知り合える
- \* アーティストがクリエイティブな活動ができる、アーティストと地域の人が一緒に創作活動ができる
- \* くつろぎながら、本にふれることができる
- \* 自然に囲まれ、風や緑を感じながらデスクワークができる
- \* コンサート、演劇、美術展、映画で興奮・感動することができる
- \* 区民(地域住民)が集まってサークル活動ができる
- \* 心地よい場所で、日ごろの疲れをいやすことができる



・建替え時期を迎える隣接した複数の公共施設の再整備を検討する際は、上記のような体験が実現できる場の創出を目指します。

- \* 図書館・地区センターなどの市民利用が盛んな複合施設の検討

●日常生活を支えるスーパーなどの生活利便施設や生活サービスの維持・更新

・スーパーや医療施設等の生活利便施設や、高齢者・子育て支援サービス等の日常的な生活サービス施設について、地域の需要を踏まえて適切な更新等を誘導し、区心部での生活利便性を維持します。

\* 日常生活を支える施設の老朽化等に伴う建替え・移転等の際には、これらの機能が生活圏内で維持できるよう地域の需要を踏まえて誘導

### 3 まちの基盤の段階的な改善

安全面、交通利便の面のインフラの質を向上させることにより、人々が安心して気軽に区心部に訪れることができる環境を整え、人々の交流が促進されるような魅力的なまちづくりを推進していきます。周辺地域や区内主要施設からのアクセスを向上させるとともに、区心部での移動しやすさや回遊性の向上を図ります。また、大規模土地利用転換に際しては、魅力的な都市空間を形成する観点から、都市基盤整備及び沿道空間の形成を誘導し、段階的に推進していきます。

\* は想定される取組の例

#### (1) 区心部のアクセス性向上に資する交通インフラの強化

- ・区心部内（区役所周辺～駅周辺）では、快適で楽しい歩行者空間を創出し、人が主役の道づくりを目指します。横浜金沢歴史の道、宮川沿道、国道16号など、それぞれの通りの特性を踏まえつつ、更新等の機会を捉えて段階的に進めることで、エリア全体で歩行者ネットワークがつながるよう、魅力的な空間形成を図ります。

\* 宮川と走川プロムナード・横浜金沢歴史の道をつなぐ、泥亀公園と金沢警察署に面した通りを「東西軸」として新たに設定し、回遊性を促す快適に歩ける空間として整備

\* 建物の更新の機会を捉え基盤を改変する際には、周辺の歩行者空間や広場等とつなげる計画とし、木陰をつくるなど夏でも涼しく歩きやすい空間の形成

\* 通りの特性を踏まえた歩行者ネットワーク形成のための具体的なルートの検討

- ・区心部と周辺地域を結ぶ道路の整備、既存公共交通の改善、多様な公共交通手段の導入により、周辺地域や区内観光施設から区心部へのアクセス性の向上を図りつつ、区心部内の移動もしやすくしていきます。

\* 新たなモビリティ、カーシェアリング・自転車シェアリング、ボートを利用した海上交通など、多様な交通手段の導入により、移動手段の選択肢を増やす

\* 区心部内を循環する交通手段の導入

\* 区内の観光施設間を手軽に周遊しつつ、区心部内にもアクセスできる交通手段の導入



多様な移動手段の例  
：チョイモビヨコハマ

## (2) 金沢区の玄関口である金沢文庫駅と金沢八景駅の顔づくり

・金沢区の玄関口として、区民にとって利用しやすく愛着をもてる駅前空間を事業者等と協働しながら形成します。

- \* 金沢文庫駅：区心部、歴史的景観や文化的な背景のある称名寺、区民や来街者の憩いの場である八景島・海の公園等への玄関口
- \* 金沢八景駅：区心部、研究及び教育の拠点となる2つの大学、区民や来街者の憩いの場である野島公園・海の公園等への玄関口
- \* 買物や飲食のできる利便性の高い駅前空間及び駅前周辺の整備
- \* 歴史的・文化的な要素を踏まえた、展示・ギャラリースペース、人が集える空間の形成や演出の誘導。金沢八景駅東口駅前においては、「建築物等のデザインガイドライン」を尊重した整備

## (3) 安心安全に暮らせるまちの基盤の改善

・災害時には防災拠点の機能を担う公共施設（区役所、土木事務所、消防署、警察署など）が集積するエリアでもあるため、自然災害対策など防災性能を向上させるまちづくりを推進します。

- \* 高層の建築物や構造物などの津波避難施設の認定など、津波や高潮などの水害に強いまちづくりを推進
- \* 密集市街地の解消

・建物や道路など、まちを支えるインフラを整備する際には、ユニバーサルデザイン等に配慮し、あらゆる人が利用しやすいものにします。

- \* 「金沢文庫駅・金沢八景駅周辺地区バリアフリー基本構想(平成25年3月策定)」に沿った公共交通機関、建築物、道路、路外駐車場、都市公園、信号機などの整備
- \* 金沢文庫駅前空間に、歩行者、緊急車両、公共交通、自家用車両がそれぞれ安全にアクセスできる

将来像（イメージ）



